漢

三年

画数 13

筆順

オン カン

クン

成り立ち

黄（2年136）と土（1年65）とを組み合わせて作った〝黄土（中国の黄河の上流に見られる）〟をあらわした〝堇（勤6年863）〟と、河の意味をあらわした〝氵〟とを組み合わせて作った字です。

「堇（カン）という名の河」をあらわした字です。今は、〝漢水〟とよばれています。この上流を〝漢中〟と言います。むかし、漢中王の劉邦が、中国を統一して〝漢〟という王朝をたてました。今の漢字は、その〝漢〟の時代に作られ、中国に広まりました。それで、〝漢字〟と言われています。

それで、〝漢〟は〝中国〟という意味になりました。

また、〝中国人〟という意味につかわれ、〝人〟という意味にもつかわれるようにもなりました。例悪漢、好漢。

使い方

▽漢字は、日本で発明されたものではありません。そのむかし、中国から伝わって来たものです。中国のところに、むかし、「漢」という国がありました。その文字なので、「漢字」というのです。

▽わたしのおばあちゃんは、病気にかかると、よく、漢方薬をせんじて飲みます。おばあちゃんは、むかしから、漢方薬を愛用しているのです。

熟語例

▽漢文（中国語の文章。日本では、これを訓読みして、日本語としていみが通じるように読んでいます。）

▽漢詩（中国の詩。語数が決まっており、韻をふんでいて、整った形式をもっています。）

▽悪漢（悪者。悪いことをする人。「西部劇に、悪漢が登場して、駅馬車をおそった」などというふうに、つかいます。）

▽好漢（好い男の人。好ましい感じの人。「中国の小説に、『水滸伝』という長編小説があります。これは、星の化身である、百八人の好漢が、大活躍する、とてもおもしろい物語です。」）

館

三年

画数 16

筆順

オン カン

クン

成り立ち

土のかきね（自）をめぐらした家といういみで、〝役所〟といういみをあらわした〝官（4年472）〟と、〝食（2年166）〟とを組み合わせて作った字。

「役所につとめる人たちが食事をするためにたてたりっぱな〝たてもの〟」をあらわした字です。大きなりっぱなたてものなので、〝びじゅつ館〟〝はくぶつ館〟など、「大きなりっぱなたてもの」のいみにつかわれるようになりました。

〔食堂ではなくて、今の迎賓館ともいうべき建物を言ったものであろう。〕

使い方

▽ぼくたちは、熱海の旅館にとまりました。この旅館は温泉がわき出していて、とてもいいところです。

▽わたしは、よく図書館に行きます。図書館には読みたい本がたくさんあります。今は『小公子』を読んでいます。

熟語例

▽旅館（旅人をとめるたてもの。やどや。「行楽地には、たくさんの旅館があります」などというふうに、つかいます。）

▽図書館（本などをたくさんあつめて、読みたい人にかしてくれるところ。「国会図書館は日本で一ばん大きな図書館です」などというふうに、つかいます。）

▽美術館（絵や彫刻などの芸術作品をかざって、人に見せるところ。「ちかごろは、地方に、りっぱな美術館がたてられるようになった」などと、つかいます。）

▽博物館（古いものからあたらしいものまで、色々な文化てきな作品や、自然の芸術品などをかざって、人に見せるところ。「イギリスの大英博物館は、世界てきに有名です」などというふうに、つかいます。）